

平成29年11月23日(木)

老球の細道372号

## 学び続ける

会津バスケットボール協会 室井 富仁

数年前にトステインの講習会で学んだプレスディフェンスにおけるレシーバーディフェンスの方法に疑問があった。それが昨日突然解消できた。すっかり忘れていたのだが、先日ある本を読んでいたら、その疑問が突然よみがえり、その本によって見事に解決できた。夕食時に飲んだ「純米吟醸酒・泉川」の旨かったこと……。

学び続けることによってフラッシュバックのように迷宮入りした昔の未解決問題がスバツと解決できることがある。理解しにくいことに関しては、関連本、関連資料に意識して食い漁っていると、よくこういうことが起きる。わからなかったことがわかる、知らなかったことを知る、できなかったことができるようになる、すべて学びの究極の喜びであり、至福のひと時である。

つい先日、若い指導者から「オフェンスのチームプレーを教えるにはどうしたらよいか」「ディフェンスの組み立てかたはどうすればよいか」とか色々質問された。私だっていまだにわからないことだらけなので、自信をもって教えることなどできなかった。与えたアドバイスは、学びのチャンスを利用したらということだけ。学びのチャンスとは、講習会に参加する、ビデオ教材を買う、ナマのゲームをたくさん見る、BS、CSテレビでバスケットボール番組を見る、そして極めつけは海外研修をする。学び続けることによって自分の信じるものが見つかる。それが教えるに値する内容であろう。信は力なり。

「学ぶことをやめた指導者は教えることをやめなければならない」。これはサッカー元フランス代表監督ロジェ・ルメールの有名な言葉である。コーチが高いレベルで学ばなければ自分の指導する選手のレベルは向上しない。バスケットボールのみならずすべてのことは日進月歩進化し続けている。これでいいということは絶対ない。日々進化しているからこそ日々学び続けなければならない。それを大変だと負担になったときコーチは潔くコートを去るべきだ。バスケットボールを学ぶことが面白く、楽しくてしかたがないというコーチのみがコートに立つ。選手はそのようなコーチに指導されて初めて本物になる。

日々進化し続けるから「知らない」ことが次から次へとやってくる。だから学び続けなければならない。そして好都合にも学び続けることは究極のアンチエイジングだという。

【どんな世界でも一流の条件とされていることがある。それは、「知らない」と言えることだ。何歳になっても、どれだけ専門知識を持っていても、あらゆることに好奇心を示し、未知なることに堂々と「知らない」と言える人間でなければ、常識の枠を超えられない。

自分に欠落しているものを認識し、それを埋めようとする欲求が働くのは、若々しい脳の特徴である。余白がなければ新しいことは書き込めない。これまで積み上げてきた実績や経歴、また当たり前と思っていた常識や思いこみ、そういった重い荷物をひとまず脳から降ろしてやることだ。脳のアンチエイジングに必要なのは「知っている」より「知らない」ことなのだから。脳に限界はない。人間は何歳になっても挑戦し、学び続けている状態こそが、脳をもっとも若々しく保つ秘訣である】(プロフェッショナルたちの脳活用法)

最後に、アメリカの自動車王・ヘンリー・フォードの言葉である。「学ぶことをやめた人は誰でも老いている。二十歳でも八十歳であっても、学び続ける人は誰でも若い」。

学び続け、好奇心を揺さぶられ、刺激的な毎日を送りたい。脳は常にNO!